

1. ベーシック・コンセプト P.2~3
2. 外断熱工法 P.4~7
3. 24時間熱交換気システム P.8~9
4. 24時間セントラル冷暖房システム P.10~11
5. 木製サッシ・Low-Eトリプルガラス  
／断熱アルミサッシ・Low-Eペアガラス P.12~13
6. 床・階段材／玄関ドア・室内ドア P.14~15
7. クロス・接着剤・塗料 P.16~17
8. システムキッチン P.18~19
9. 全蛇口活性水供給型システム／ホームスプリンクラー P.20~21
10. システムバスルーム／マルチメディア対応 P.22~23
11. 地下室の有効活用／太陽光採光システム P.24~25
12. サニタリー／標準仕様 P.26~27
13. 10年保証 P.28
14. 住宅性能表示 P.29~31



今から百数十億年前に誕生した宇宙。そして地球は46億年前に誕生しました。その後生物が誕生し、人類の祖先が生まれ人間に成長進化してきました。その人間が農耕を始めたのは今から1万年前のことです。

人類が文明をもってからの期間などは長い宇宙の歴史の中ではほんの一瞬と行っていいでしょう。

そして今、その短い時間の幅の中で地球環境は深刻な変化を始めました。地球温暖化問題です。地球自体、その太古の昔から氷河期や温暖期を繰り返してきました。しかしそれは、隕石や火山活動によるものでした。現代の地球温暖化は、膨大なエネルギー消費で生じるCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)大量放出という、いわば人間によるものです。人間がより豊かで快適になるためエネルギー消費は必要なことですが、今、その消費のあり方を考える時期にきてるといえます。

より豊かで快適であること、それは住まいに関して言えば寒い部屋を暖かく、暑い部屋を涼しくすることです。現代においてはガス、電気が普及し冷暖房機器も急激に進歩しスイッチ1つで豊かさを享受できるようになってきました。夏にも冬にもエネルギーを使う生活です。しかし今後の住まいに必要なことは「寒い部屋を暖かく、暑い部屋を涼しくすること」ではなく、「寒くも、暑くもなりにくく、エネルギーを出来るだけ消費しない」住まいを考えることではないでしょうか。その1つの解答が外断熱工法の住まいです。



住宅先進国（スイス、デンマーク）の常識、外断熱工法。

木の気になる、自然のやすらぎ。

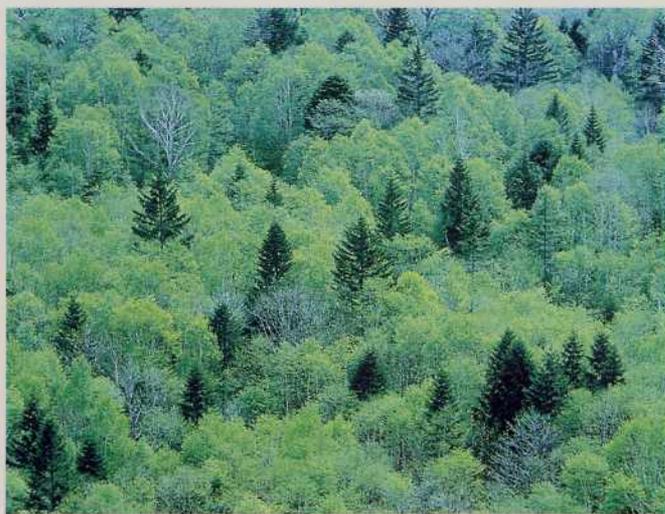


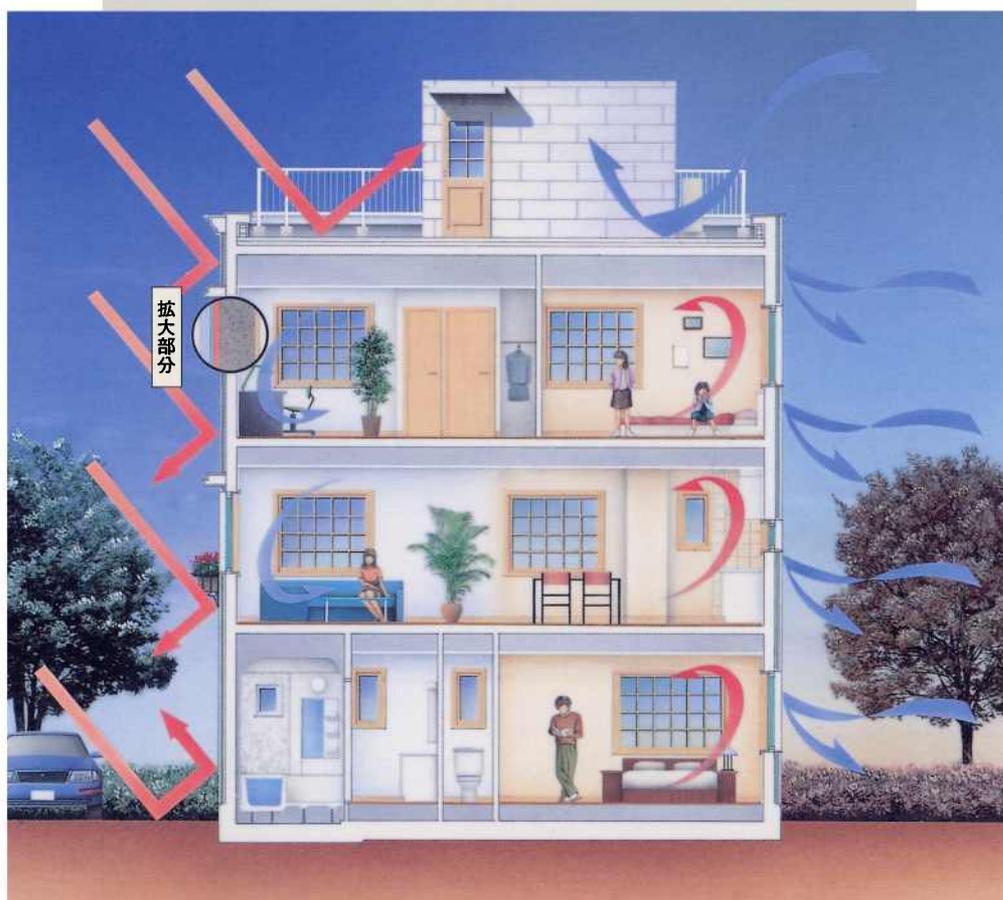
image photo

日本古来の家は木や土を多用して造られ、その建築に当たっては、基本的に夏を意識した構造となっています。昔は暖をとる火はあったとしても自然の温度以下に室内を涼しくするすべはなく、自然に逆らえない以上、外気温に対し克服できない夏を主体に住まいづくりが考えられました。

外断熱工法は外気温の影響を受けにくい快適住空間を実現。

夏秋冬のはっきりした日本の気候。それに対応して日本の冷暖房の技術は大きく発達してきましたが、それでも外の熱気や冷気に室内の温度が影響されるのは避けることができませんでした。外断熱工法は外からの影響をシャットアウトしそれを最小限に止めることのできるいわば理想の家造りの技術です。

●外断熱工法概念図



〈夏〉  
熱い外気や夜の輻射熱から建物を守ります。

〈冬〉  
外の冷気からガードし、室内外の温度差による結露を防ぎます。

樹齡数千年の生命を授かったことの歡び。

蓄熱体（鉄筋コンクリート）の悪を善に変える。

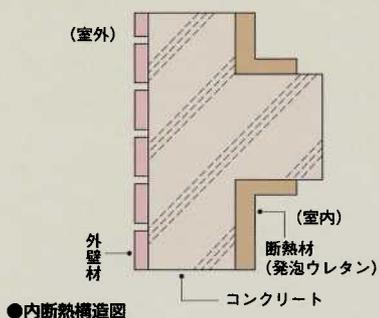


image photo

日本の高温、多湿という気候風土の中で、生まれ育ってきた木の家の伝統工法。1300年前にたてられた世界最古の木造建築物・法隆寺が今あるのも当時から、夏を意識して防湿、通風機能を備えていたからです。

しかし現代においては、エアコンなどの発達により夏の温度管理も容易になりました。しかし今、日本の住まいづくりも大きな転換期にきています。それが内断熱工法から外断熱工法への転換です。

〈内断熱工法〉



従来の内断熱工法においては、構造体の内側に断熱材を使うので壁の内部に冬の冷氣、夏の熱気が蓄積する結果となり室内の冷暖房効率は著しく悪くなってしまいます。又、さらに外気との温度差により建物の膨張・収縮によるいたみや結露の発生などの弊害を生んでしまいます。

〈外断熱工法〉

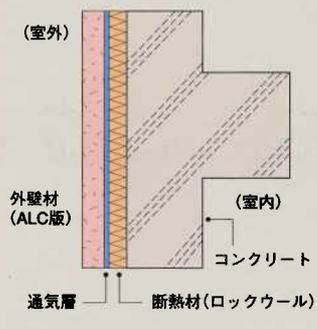
外断熱工法は外気の温度変化を構造体の外側で守ることによって室内温度変化を最小限にし、構造体を劣化から守る二重のメリットを備えています。

●外断熱工法1 (ALCパネル型通気層工法)

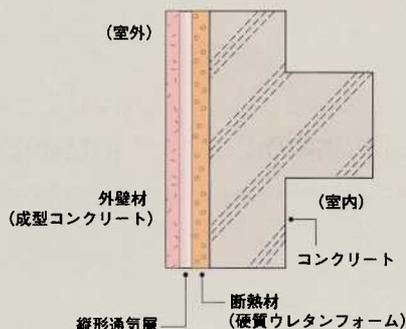
コンクリート層の室外側に断熱材を用い構造体を外部温度からの劣化を防ぐと同時に、さらにその外側のALC版と断熱材の間に空気層を作ることによって断熱効率を飛躍的にアップしています。

●外断熱工法2 (成型コンクリート型通気層工法)

コンクリート層の室外側に断熱材を用い構造体を外部温度からの劣化を防ぐと同時に、成型コンクリートに縦型の通気層を作ることによって断熱効率を飛躍的にアップしています。



●外断熱工法<1> (ALCパネル型通気層工法)



●外断熱工法<2> (成型コンクリート型通気層工法)



いつも自然な優しさ心地よさのある暮らし。

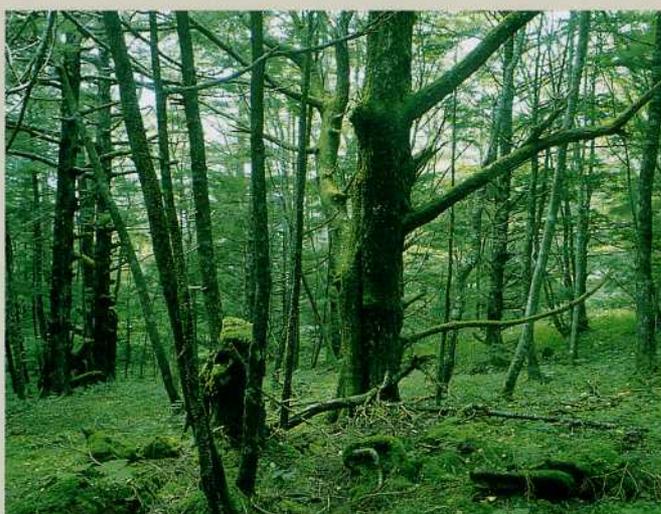
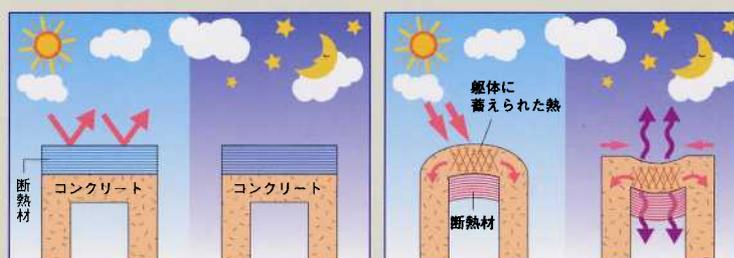


image photo

**木**は伐採された後も生き続けています。無数の細胞から成る木は、木材となってからも細胞が気泡となり、呼吸をしています。湿度が高いときは水分を吸収し、低いときは水分を放出する、この優れた自然の調湿性が建築物を長寿化させ、自然素材ならではの木の家の快適性や心地良さ、そして優しさ、温もりを生み出しているのです。

#### 外断熱工法で最上階も1年中快適

**外**断熱工法を屋上スラブに採用することで、屋根が直射日光や冷気にさらされないため、昼と夜の外気温の温度差による膨脹や収縮が少なくなり、建物の劣化や室内の熱のこもりを抑えることができます。結露を防いで、夏は涼しく、冬は暖かい、木の家のような、快適な住み心地を実現します。



●外断熱工法屋根

●内断熱工法屋根

#### 本当の快適100年マンションを誕生させる先進の外断熱工法

**外**断熱工法と24時間冷暖房・熱交換気システムとの相乗効果によって、室内の結露を防止し、カビ・ダニの発生をほとんど防ぎます。外断熱工法は、今までの日本の99%のRC造に用いられる内断熱工法と比べて、冷暖房費が3分の1に、建物の寿命が3倍に伸びるなど、住む方のランニングコストを軽減し、資産価値のある経済性の良い木の家のような、人の健康に優しい住環境を実現した100年マンションを誕生させます。